

2019年8月6日

報道関係者各位

Press Release

=====

顔の経穴（ツボ）への鍼刺激の心身効果を検証

～Society for Acupuncture Research (SAR) 2019 国際学会発表レポート～

=====

明治国際医療大学（京都府南丹市）では、株式会社シーボン（以下シーボン.）との受託研究や脳科学の産業応用事業会社(株)NeU との提携により、シーボン. が独自に開発した「東洋式美顔マッサージ」が心身に与える効果について検証を行っております。

今回、その取り組みの一環で、「東洋式美顔マッサージ」※1の基となる「経絡経穴理論」の効果を検証し、2019年6月27日～29日に開催された「Society for Acupuncture Research (SAR) 2019 国際学会」※2（米国バーリントン）にて、「顔面部の経穴（ツボ）への鍼刺激による心身への効果」と題して成果を発表しました。

本研究では、脳科学や生化学の手法を用いて顔面部の経穴（ツボ）への鍼刺激が抗ストレス作用を有することが確認されました。さらに、心身状態に対する主観評価の結果、身体的な自覚症状に対する緩和作用があることが認められました。

顔の経穴（ツボ）への刺激による心身効果の研究報告は少なく、今回の結果が今後の新たな美容法開発への一助となる可能性が期待されます。

※1「東洋式美顔マッサージ」は、顔にある36ヶ所の美肌ポイントをオールハンドで刺激し、毛穴の奥にたまった老廃物を排出。巡りを促すことで肌本来の美しさを引き出すというもの。

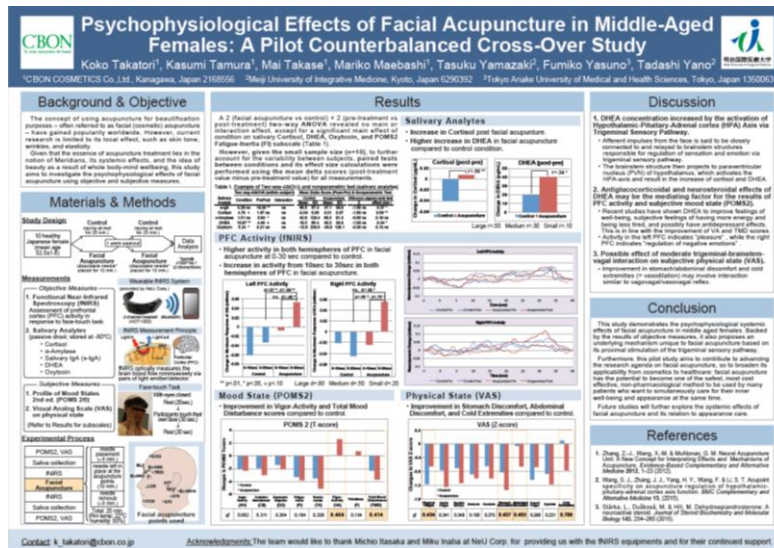
※2「Society for Acupuncture Research 国際学会」・・・1993年にアメリカにて設立された鍼灸学会。鍼治療と東洋医学の研究の進歩と問題に関する国際的な会議を隔年で開催している。

【参考資料：顔面部の経穴（ツボ）への鍼刺激による効果について】

本研究では、顔面部の経穴への鍼刺激が抗ストレスホルモンとして知られる生体内 DHEA 量を高めること、並びに、大脳の前頭前野において、「ネガティブな感情の制御」と「快感情」を示す脳活動が活性化することが認められました。

主観評価による気分状態の改善もこれら客観指標と一致する結果でした。

また、身体的な主観評価として胃・腸の不快感の緩和、末端の冷えの緩和といった遠隔部位（臓器）への作用も確認されました。



方法：

鍼刺激群とコントロール群（仰臥位閉眼安静）によるカウンターバランス、クロスオーバー試験。

介入前後において以下の項目を測定・評価した：①ストレス反応に関連する唾液中因子、②近赤外分光法(NIRS)による前頭前野の血流動態、③気分状態（POMS② 日本語版）、④身体部位ごとの自覚症状（VisualAnalogue Scale (VAS))。

研究協力者：健康成人女性 10 名（平均年齢 52.5±1.6）

実施期間：2019 年 2 月～3 月

【本件に関するお問い合わせ先】

明治国際医療大学 鍼灸学部はり・きゅう学講座 山崎 翼

〒629-0392 京都府南丹市日吉町保野田 TEL：0771-72-1181 FAX：0771-72-1189

※本広報資料は、ご自由にご転送・ご引用ください。

←--- プレスリリース配信元：明治国際医療大学 <http://www.meiji-u.ac.jp/> --->